

2010年1月22日

報道関係者各位

No.-58110

株式会社 東陽テクニカ  
東京都中央区八重洲1-1-6

## 東陽テクニカ、平成22年9月期第1四半期決算発表

(株)東陽テクニカ（8151：東京都中央区 渡辺洋介社長）は、本日（平成22年1月22日）午後2時、T D n e tにおいて平成22年9月期第1四半期の決算を発表しました。

### 概要

#### 売上高、前年同期比22.3%減、特別利益計上で純利益は大幅増

売上高は33億7千9百万円（前年同期比△22.3%）、営業利益はマイナス3億3百万円（前年同期は営業利益1億4千2百万円）、経常利益もマイナス2億3千7百万円（前年同期は経常利益2億4千2百万円）となりましたが、昨年末に売却した米国子会社 ClearSight Networks, Incの譲渡益13億5千5百万円を特別利益に計上したことから四半期純利益は12億5百万円（前年同期は四半期純利益7千万円）となりました。

### 売上動向

#### 研究開発投資の本格的回復は下期以降

輸入売上高は29億3千9百万円で、前年同期比25.8%の減収、輸出売上高は3億3千7百万円で、前年同期比45.0%の増収でした。

主要分野の前年同期比は情報通信分野が22.3%減、自動車業界向けデータ解析分野が9.1%減、EMC測定分野が54.6%減となっており、厳しい環境が続きました。輸出は韓国向け輸出を中心に前年同期比45.0%増と回復しつつあります。

### 受注動向

#### 受注高、前年同期比3.9%減、下げ止まりへ

当第1四半期（平成21年10月～12月）の受注高は、46億4千3百万円で前年同期比3.6%減となりましたが、減少幅は縮小しつつあり、引合の増加も認められることから受注底入れ局面に入ったものと見ております。

## 売上総利益率

当第1四半期(平成21年10月～12月)は前年同期比0.9%ポイント減少しました。これは、利益率が相対的に低い韓国向け輸出の売上に占める割合が増加したためです。当第一四半期の平均為替レートは対ドルで91円(前年同期97円)、対ユーロで134円(前年同期129円)でした。

## 経費

経費は18.1億円で、前年同期に比して1.2%の減少となりました。連結対象子会社が減少したことによるものです。

## 連結対象子会社

CLEARLIGHT NETWORKS社(米国)

日本国内での受注・売上ともに計画通りでしたが、米国市場においては大口受注があったものの計画には達しませんでした。なお、昨年12月28日付で同社を米国Fluke Networks社に売却いたしました。

## 第2四半期ならびに通期予想

当第1四半期の日本経済は徐々に回復の兆しを見せ始めておりますが、研究開発投資について一部に積極的な動きがみられるものの、本格的な回復は下期以降になると予想しております。

このため、第2四半期ならびに通期の予想を修正し、以下のとおりとします。なお、予想年間配当金は単体の当期純利益に連動しており、業績の見直しの結果、単体の当期純利益は当初予想と変わらないため、一株当たり32円(中間配当金は6円)のままとなります。

### 第2四半期

売上高 90億円(単体90億円)、営業利益 4億円(単体4億円)、経常利益5.5億円(単体5.5億円)、当期純利益15.5億円(単体7.5億円)

### 通期

売上高 175億円(単体175億円)、営業利益 5億円(単体5億円)、経常利益 8億円(単体8億円)、当期純利益 17億円(単体9億円)

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで

株式会社 東陽テクニカ 経営企画室 (トトキ) 十時

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:totoki@toyo.co.jp